

## かわさき教育プラン

## 社会教育改革重点施策整理

社会教育改革重点施策	今までに寄せられた意見	社会教育改革重点施策修正案（資料 2）
改革の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習」という言葉と「社会教育」という言葉が混在し、整理されていない印象がある。</li> <li>「上記の方針に従い～」の記述と、「(1) 改革の視点」の表題名との整合は？</li> </ul>	
<p>地域に密着した生涯学習支援体制の構築</p> <p>ア 行政区単位で地域の生涯学習をコーディネートする機能を整備します</p> <p>イ 市民利用施設のネットワーク化を進めます</p> <p>ウ 地域の人材活用・人材育成システムを構築します</p> <p>エ アウトリーチを促進します</p> <p>オ 地域を核としたスポーツ振興システムを構築します</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく人を配置したり、新しい組織をつくったりしなくても、市民をうまく支援していけば市民が全て手弁当でできるようになるということをもっと強調してはどうか。</li> <li>行政区地域教育会議の施策を整理して、新しい施策を打ち出してほしい。（部会傍聴者より）</li> <li>他行政(文化、青少年、婦人、人権)とのネットワーク及び統一をどうとらえ、どう表現するか。</li> <li>文化、青少年、婦人という分野が他行政に移っているが、教育側から見てそれで本当にいいのかどうか。</li> <li>「アウトリーチ」という言葉は一般的ではない。</li> <li>社会教育は区単位で進めていくと、将来的に金や物や人が区に吸収されていく。しかし、今までどおりのやり方で市民館を中心にやっても、区役所との関連は作れないし、枠を出ない。どのような手法があるのか、検討してもらいたい。どうせ改革するなら中途半端にしないで、思い切ってやってしまったほうが、川崎の社会教育が面白くなる。</li> <li>市民館の区役所移管については、まちづくりの関係や新たな参加者の獲得というメリットと、今まで教育が積み上げてきた様々な水準が壊れるかもしれないというデメリットがあり、事前評価を十分にしておく必要がある。</li> <li>社会教育としての自助、共助、公助の概念とシステムの構築が必要。</li> <li>点数化するのは社会教育は難しいと昔から言われてきたが、新しい視点やシステムをつくり、市民に情報を公開することによって判断をいただくような方法を検討すべきである。</li> <li>区のまちづくり活動と連動させるような視点も。</li> </ul>	<p>地域に密着した生涯学習支援体制の構築</p> <p>ア 行政区単位で地域の生涯学習をコーディネートする機能を整備します</p> <p>イ 社会教育施設の役割を見直し、活性化を図ります</p> <p>ウ 市民利用施設のネットワーク化を進めます</p> <p>エ 市民参加のシステムを充実させていきます</p> <p>アウトリーチについては へ。</p>

<p>学校教育と社会教育の連携</p> <p>ア 地域での子どもの居場所づくりを進めます</p> <p>イ 地域の中での社会体験活動を推進します</p> <p>ウ 地域による学校のサポートを推進します</p> <p>エ 地域をあげた子育て支援体制の構築を進めます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地域をあげた子育て支援」の部分の記述は、高校中退すること自体、フリーターであること自体が問題であるかのように見える。デリケートな問題なので、もう少し丁寧に表現すべき。</li> <li>・ 子育て支援、大人と子どもの共同学習、世代間交流などの視点も。</li> <li>・ 虹ヶ丘コミュニティルームのような、大人のための施設が結果的にコミュニティづくりや地域の子育てに波及効果を持ちえるということを、きちんと評価する必要がある。また、それにはある程度のコストをかけていかないと長続きしない。</li> <li>・ 「学社連携」「学社融合」「生涯学習体系」という表現はかたい。</li> <li>・ 市民館に学社連携担当者を置くのは、現状から見ると実現性を欠くのでは？職員の負担が増してしまう。(部会傍聴者より)</li> </ul>	<p>学校教育と社会教育の連携</p> <p>ア 地域社会のセンターとしての開かれた学校</p> <p>イ 地域での子どもの居場所づくりを進めます</p> <p>ウ 地域をあげた子育て支援体制の構築を進めます</p> <p>社会体験活動については へ。</p>
<p>新たな社会教育施策の展開</p> <p>ア 社会教育としての新たな取り組みを考えます</p> <p>イ NPO、ボランティアグループ等との連携を進めます</p> <p>ウ 文化財保護と博物館活動を、市民参加により推進します</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業との連携については、どのように社会教育の特色づくりの中で出していくか。</li> <li>・ NPO やボランティアに関しては、もっと広い意味でNPO やボランティアを活用しながらネットワークを組んでいこうという趣旨になると思うので、文章表現を変えたほうがいい。</li> <li>・ 市民の潜在能力の活用が重要。社会教育だけでなく、学校教育だけでなく、閉鎖的ではない組織が必要。市民活動の場づくり 活動につながる研修 活動の評価といった流れづくりを。既存の組織で人を使うのもあるが、今は個の問題なので、新しいボランティアの活用システムのようなものをつくってほしい。</li> <li>・ 今後は社会教育において若者達の職業支援も、という話になってくると、今までの市民館の枠組みとは別の発想で、新しい社会教育のあり方を考えられる。</li> <li>・ NPO やボランティアの整理ができたうえで議論されているのか。NPO も含めた市民の役割がどこにあるのか、各団体にどのような役割を担ってほしいのかを具体的に議論すると、川崎らしさが出てくるのではないか。</li> </ul>	<p>社会的ニーズの掘り起こしと現代的な市民教育の推進</p> <p>ア 学習活動への参加に困難をもつ人々に対して参加の機会を充実させていきます</p> <p>イ 青少年・フリーター・女性などの社会的自立と就労に向けてのキャリアアップを支援します</p> <p>ウ 市民教育・キャリア教育のための支援ネットワークを構築していきます</p> <p>NPO、ボランティアについては へ。</p>
<p>その他に寄せられた意見</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あらゆる施策がこどものために行われる、ということが分かるように焦点をしぼるべき。課題が多すぎるが、課題にとらわれてしまってはいけない。</li> <li>・ スポーツと文化財の話は部会では議論されていないのだが、重点施策にここまで大きく取り入れていいのだろうか。個人的には重要なことなので入れるべきと思う。</li> <li>・ 権利(学習権)の位置づけが不明確。</li> </ul>		